

令和4年度
(2022年度)

観光にぎわい部の取り組み

<部長の方針・考え方>

部内全職員が仕事への「意味」を見出し、力を合わせて取り組めるよう2つのことに取り組みます。

1.「風通しの良い職場」をつくる／2.「共感（エンパシー）得られる対話」を意識付ける

<部の構成>

観光交流課

商工振興課

農業振興課

文化生涯学習課

文化財課

スポーツ振興課

<主な担当事務>

(1)観光及び都市交流に関すること。

(2)商工業に関すること。

(3)農業及び里山に関すること。

(4)文化および生涯学習に関すること。

(5)文化財に関すること。

(6)スポーツに関すること。

重点的な取り組み：戦略的な観光施策の展開

2025年大阪・関西万博に向け、歴史・文化・芸術・スポーツ・食といった本市の観光資源を活用した施策を戦略的に展開し、にぎわいの創出につなげます。



◆市駅周辺で生まれつつある「活性化要素」を生かす

15周年を迎えた「枚方宿くらわんか五六市」は1日約8000人が訪れるまちなか市として人気が定着しています。そうした中、「淀川の舟運」は枚方～大阪間の定期就航が実現し、淀川大堰の新たな水門整備に着手されています。また、昨年オープンした総合文化芸術センターでは音楽や演劇、アートで連日多くの人々が訪れ、令和6年には枚方市駅前に新たなホテルも完成予定です。3年後の万博を前に、枚方宿界隈や枚方市駅周辺のにぎわいを活性化させる要素が生まれつつあり、今後の観光施策の展開に当たってはこれらを積極的に生かす取り組みを進めます。

◆起点は枚方宿「観光をデザイン」する

上記のことを踏まえ、現在の枚方市をかたちづくった歴史を持つ「枚方宿地区」を起点とし、枚方市駅～淀川河川エリア、枚方公園駅までの地域を「面」で捉えることで、万博を見据えたにぎわいの広がり生まれるよう、観光を「デザインする」視点で取り組みます。その中でさらなるツーリズムの開発を進めるため、民間事業者や淀川上流域自治体との連携も深めながら、舟運や河川公園を活用した実証実験を積極的に行います。

◆拠点整備と観光経営体の確立へ

枚方宿を起点とした観光施策を推し進めるためにも、枚方宿のほぼ中心にあり淀川河川公園にも近い幼児療育園跡地の活用については、新たなにぎわい創出の拠点として民設民営での整備に取り組み、民間主導による持続的な運営を視野に地域経済の活性化を進めます。また、戦略的な観光施策を進めるためにも民間主導の観光経営体の確立に向け、具体的取り組みを推進。文化観光協会の役割・連携についても検討していきます。

◆郷土愛育むコンテンツの創造

市外から人を呼び込むことはもちろん、市民が誇りを持って枚方の魅力を発信することにつながる取り組みを進めます。市の花「菊」や「七夕」を活用するとともに、食や楽しみも含めた新たな観光資源の発掘にも着手し、さらなる観光コンテンツの創造につなげます。

重点的な取り組み：文化芸術活動のさらなる発展とにぎわいの創出

◆総合文化芸術センターから「文化芸術のまち」を発信

魅力的で多彩な事業を実施し、市内外から多くの人が来館する施設を目指します。また、枚方市駅周辺のにぎわい創出に向け、周辺商業施設等との業務提携による公演チケット提示割引などを継続します。取扱店舗の拡大や新たな事業者との連携についても検討を進めます。



◆文化芸術活動の「裾野」を拡大

市民総合文化祭（合唱や吹奏楽、演劇や人形劇など）や市展（公募選抜型美術工芸展）を昨年に引き続き開催します。小学校へのアウトリーチや全市立中学校1年生を対象とした大阪フィルハーモニー交響楽団によるフルオーケストラ鑑賞会などを教育委員会と連携して実施します。

重点的な取り組み：文化財の保存と活用

◆百済寺跡の整備と歴史遺産の魅力発信

歴史的建造物である築地塀の復元工事に着手します。市内大学生の協力のもとAR映像(右図)などICT技術を活用した魅力発信にも取り組みます。市内の貴重な歴史文化遺産や資料館についても、市内事業者と連携したツーリズム開発や駅舎へのチラシ配架など公民連携による魅力発信について検討を進めます。



◆文化財を身近に感じられる啓発事業

出土した土器に直接触れられる出土遺物復元作業体験を実施するとともに、市民歴史講座・歴史ウォーク・各種刊行物の発行など普及・啓発に取り組みます。発掘した遺物や遺構は市民が気軽に見られるよう、輝きプラザ2階展示ルームなどで積極的に展示・紹介します。

重点的な取り組み：スポーツ施策の充実

◆あらゆる分野と連携した生涯スポーツの推進

ウィルチェア（車いす）スポーツなどパラスポーツの体験会とパラアスリートの講演会を組み合わせたイベントを開催します（市制施行75周年記念事業）。あらゆる世代がスポーツに親しめる機会の充実や、健康寿命の延伸を目指す生涯スポーツの推進の観点から、文化・観光・健康福祉の分野とも連携を深めます。

◆地元スポーツチームとの連携

枚方が本拠地のチーム「パナソニックパンサーズ」「FC ティアモ枚方」の知名度アップへ、地域と交流できる機会を増やします。応援グッズの作成や情報発信の強化など「観るスポーツ」の促進につなげます。



◆野外活動センターの活性化

東部地域の活性化にもつなげるため、公民連携プラットフォームを活用した民間事業者との連携をより進めるとともに、市民ニーズを把握し施設の環境整備をはじめソフト事業と両輪で活性化の検討を進めます。

重点的な取り組み： 農業の活性化と里山の保全・活用

◆特産物の研究・6次産業化の推進

農業従事者や摂南大学農学部、企業等と連携し、消費者ニーズに対応した「6次産業化」および農業特産物の研究に取り組みます。商品化や販路拡大といった農業者の経営安定化に向けて取り組み、遊休農地の解消や農業振興を図ります。

◆東部地域を観光と産業の視点で活性化

地元区、ボランティア団体等と連携して森林でのセラピーやヨガ、栽培体験など新たなニーズを掴んだ取り組みを進めます。農業体験や地元農畜産物の販売、収穫野菜の調理などのグリーンツーリズムを検討します。



◆里山の自然環境を守る

森林ボランティアをはじめとした新たな担い手を発掘するとともに企業の CSR 活動を支援。木材利用の促進のために木材利用基本方針を策定し、森林環境譲与税を有効活用しながら計画的な森林整備に取り組みます。

重点的な取り組み： 創業支援の充実・強化

◆地域活性化支援センター「インキュベートルーム」利用入居要件を見直し

「起業後3年未満」に緩和し、特定創業支援事業の認定を受けた場合の入居審査を省略するなどより利用しやすい環境を整備します。関係機関で構成する「創業支援事業連絡会」との連携強化も図ります。

◆NICT（国立研究法人情報通信研究機構）との連携

事業者や大学、学生等の新分野への進出を支援します。

◆「就職氷河期世代」への奨学金支援

安定した就労を支援し人材確保につなげるため、多くの市内中小企業で課題となっている人材不足に対応することを目的に実施します。



▲「きらら創業実践塾」卒業生の店舗